

外国人留学生在が構築する「場所」
—富山大学に在籍する外国人留学生的の語りを用いて—

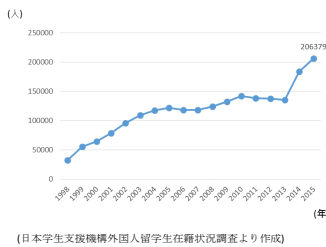
富山大学人文学部人文学科
社会文化コース人文地理学研究室
11310901年白岩彩

目次

- I はじめに
 - 1.問題の所在と既存研究
 - 2.研究目的と方法
- II 調査対象概要
 - 1.調査対象者概要
 - 2.調査対象地概要
- III 調査結果
- IV 考察
- V おわりに

I はじめに

1.問題の所在と既存研究



1983年外国人留学生在
30万人受け入れ計画
の提言



日本に来日する外国
人留学生的の増加

国際化の進展など肯定
的な側面がある一方、
留学生在は経済的・
文化的に様々な困難
を抱えながら生活
している

既存研究

貫田・ウリガ(2013)

・高社交群と低社交群の外国人留学生在が共に日本人との親密度は低く、日本人は留学生的の交友関係の中で最も比重の置かれにくい分野であるとした。

片岡(2005)

・浜松市に居住するブラジル人労働者を対象に調査
・エスニック・ビジネス事業所の機能
→財・サービスの提供+社会的機能+文化的機能
・エスニック・ビジネス事業所はエスニックな連帯意識を生み出すなど「特別な場所」

→日本人との交流が積極的に行われていない中で、留学生在同士の間でも「場所」が構築されているのではないか？

2.研究目的と方法

目的

外国人留学生在を対象に調査を行い、エスニック・ビジネス事業所のような共同組織を保持しない外国人であっても同国出身者の中で「場所」が構築されていることを明らかにし、同じ留学生在でも国籍によって構築される「場所」に差異が生じることを検討することを目的とする。

方法

インタビュー調査

基本的な質問項目だけを決めてインフォーマントの自由な語りを優先した。

表1インフォーマントの一覧

区分	学年	学部	出身国	アルバイト	サークル	ゼミ・研究室所属
A	学部生	4 文系	台湾	○	○	○
B	学部生	3 文系	中国	○	×	○
C	学部生	1 文系	中国	○	×	×
D	院生	2 文系	マレーシア	×	○	○
E	学部生	3 文系	中国	○	×	○
F	学部生	3 文系	マレーシア	○	×	○

II 調査対象概要

1. 調査対象者概要

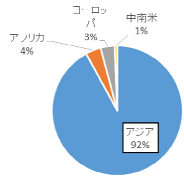


図1 出身地域別外国人留学生割合
(富山県留学生等交流推進会議広報誌
「たてやま」より作成)

・アジア地域出身の外国人留学生が外国人留学生全体の92%を占める

・アジア地域の国籍別では中国が最も多い
アジア地域出身者292名
中国人留学生184名

2. 調査対象地概要

富山大学における留学生を取り巻く環境

- ・国際交流センター
外国人留学生・日本人学生に対する支援を行う
- ・国際交流会館
外国人留学生対象の寮であり1年間限定の居住
- ・チューター制度
日本人学生が外国人留学生の学業、生活面でアドバイスを行う など...

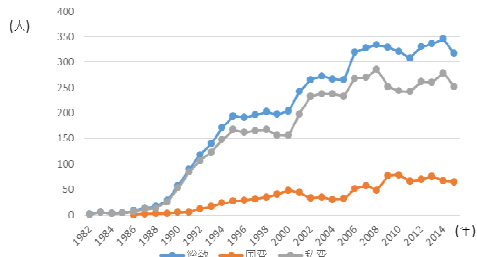


図2 外国人留学生数(富山大学外国人留学生数より作成)

III 調査結果

1. 中国出身の留学生

(発話B)1年生の頃は何も分からなかったから掲示板の見落としとかあります。同じ学部の中国出身の留学生と掲示板の写真を撮って授業に関する情報を共有したり、次の授業は試験だよとか教え合ったりして助け合っていました。

(発話C)同じ学部の中国出身の先輩を先生から紹介されて知り合いました。授業料免除の申請書の書き方が分からない時、授業の履修に関しては同じ学部の先輩に相談しました。この先輩からはアルバイト先も紹介してもらって同じところで働いています。

→同じ学部の同国出身の留学生と情報の共有が行われている

(発話C)富山大学に在籍する中国人留学生のライングループがあって一緒にご飯食べませんかとか日常的な会話もあるし、例えば自転車の譲り合いもあります。

(発話E)親友とは春節の時とかパーティをします。特定の場所が決まっているわけではないですがその都度誰の家で開催するのか決めて準備しています。

(発話B)親友と言えるのは他学部の留学生です。お互い年齢が周りの留学生と比べると上だったこともあって他の留学生とはギャップを感じていました。1年生の頃は留学生生活に対する不満を言ったりしていてストレス発散になっていました。週1・2回は会っていて飲みに行ったり銭湯に行ったりしています。

→学部の違いにかかわらず限らず、富山大学に在籍する中国人留学生の間で頻りに連絡を取ることができるようになっていく

2. マレーシア出身の留学生

(発話D)留学生の友人とは3週間に1回会う程度です。一緒に食事をしたり、スポーツをしたり、銭湯に行きます。マレーシア出身の留学のグループはあって、イベントも開催しているみたいだけど僕は研究室にいることも多いし参加することはないです。

→マレーシア出身の留学生とは個別的な付き合いにとどまっている

(発話F)1年生の時は国際交流会館で隣の部屋だった中国人留学生と仲良くなりました。母語が通じるのが中国人留学生だった。生活費の支払いとか、郵便局の支払いの仕方とか彼は日本の日本語学校に通っていて日本のことは私より知っていたので助けてもらったり私が彼を助けたりしていました。

→同国出身の留学生が身近にいない中で中国出身の留学生のグループに所属していた。

3.台湾出身の留学生

(発話A)同じ出身の留学生とは仲良くしたい気持ちはあるけどそもそも大学にいないから仲良く出来ない。交換留学生で来た同国出身の留学生がいた時は市役所と一緒に通訳をしたりしていましたね。

→同国出身の留学生が身近にいない状況の中では同国出身の留学生と交流すること自体が不可能

→このインフォーマントは彼女が中心の生活を送っており他国籍の外国人留学生との関わりも希薄であった

IV考察

・中国人留学生同士の間では、授業や日常生活に関する相談をするといった同国出身者の間での連帯が生じていた。

・多くの中国人留学生が富山大学に在籍していることから、国際交流会館や学部での中国人留学生同士の連帯が可能となり「場所」が構築されていた。

・マレーシア、台湾の留学生からは同国出身者同士での「場所」は見られなかった。

Vおわりに

・富山大学に在籍する外国人留学生の中でも中国人留学生の間では可視的な組織や空間が設立されていなくても同国・同地域出身者で連帯し「場所」を構築していることが明らかとなった。

・チューターや職員からの外国人留学生に対する支援・サポートといった公的な場面だけでなく外国人留学生の間で形成されるインフォーマルな形での連帯を示すことが出来た。

・しかし、調査人数が全体で6名と少ない人数であり、外国人留学生全体の傾向を示すことは出来なかったことは今後の研究に期待したい

参考文献

- ・片岡博美 2005. エスニック・ビジネスを拠点としたエスニックな連帯の形成. 地理学評論 78 : 387-412
- ・富山大学年史編集委員会 2002. 『富山大学五十年史』富山大学.
- ・富山県留学生等交流推進会議事務局 2016. 『たてやま』
- ・貫田優子；ウリガ 2013. 在日外国人留学生の社交性と交友ネットワーク：大阪大学・京都大学の外国人留学生を対象としたアンケート調査から. 日本語・日本文化
- ・文部科学省 「留学生30万人受け入れ計画」骨子の策定について

参考資料

- ・独立行政法人日本学生支援機構 <http://www.jasso.go.jp/> (2017/1/11確認)
- ・富山大学ホームページ <https://www.u-toyama.ac.jp/> (2017/1/15確認)